

2026 年 1 月 10 日

各位

日本航空宇宙学会 関西支部 研究分科会
「航空宇宙産業の革新」
代表 吉河 章二

2025 年度の第 2 回研究分科会を以下のように開催することとなりましたので、ご案内申し上げます。昨年 11 月に札幌で開催された宇宙科学技術連合講演会で、宇宙開発におけるデジタルエンジニアリング活用をテーマとする堤 誠司様のご講演を聴講し、課題感と解決に向けた方向性に大いに共感し、話題提供をお願いし、ご快諾をいただくことができました。ざっくばらんにお話をさせていただけると存じます。ご多忙のことと存じますが、ご興味のある多数の皆様のご参加をお待ちいたします。

記

2025 年度 第 2 回研究分科会（航空宇宙産業の革新）

日時：2026 年 2 月 13 日（金）13:00～14:30 （質疑込み）

会場：オンライン（Teams）

ミーティングリンクは、後日、参加申込者にお知らせいたします。

参加登録：下記の Google フォームから参加登録をお願い致します（申込〆切 2 月 11 日）。

参加費は無料です。 <https://forms.gle/ex9GKqw1YJ8akHYg7>

講演題目：衛星開発・運用の刷新に向けたデジタルエンジニアリング技術

講演者：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）研究開発部門 第三研究ユニット
主幹研究開発員

堤 誠司（つつみ せいじ） 様

講演概要：

小型衛星開発の分野では技術の民主化が進み、単に衛星を開発できること自体は、もはや競争優位性とは言えなくなりつつある。そこで JAXA では、従来の衛星開発プロセスおよび運用の刷新を目指し、大幅な開発期間短縮、設計サイクルの高速化と再利用性の向上、さらには運用効率の改善を実現するため、数値解析、High Performance Computing（HPC）、AI／機械学習、システムズエンジニアリング、アーキテクチャ分析、Model-Based Systems Engineering（MBSE）、デジタルツインといったデジタルエンジニアリング技術を活用し、図 1 に示す衛星ライフサイクル全体にわたる適用試行を進めている。本講演では、JAXA におけるこれまでの研究開発を通じて明らかになった、デジタルエンジニアリング活用における 3 つの課題を紹介し、それぞれに対する解決策を提案する。

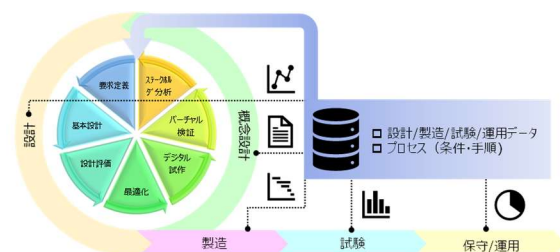


図 1 衛星のライフサイクルにおけるデジタルエンジニアリング技術の活用

以上